

あきつ

2020年10月15日発行

第 627 号

発行 / 社会福祉法人 天童会 飯野順子

通園センター改修工事 が終わりました



ミスト浴を導入しました



トイレも使いやすくなりました

2階にもプレールームを拡張



より開放的になった玄関

9月

通園センターリニューアルオープン

昨年の11月より行われていた改修工事が8月に完成し、9月12日無事に引越しました。
改修中は本園の大会議室を生活の場とし、利用者、ご家族、本園の皆様など、各方面の方々に、ご理解ご協力を頂き、約1年お世話になりました。
大会議室での生活は、広いスペース、ベランダでの日光浴、花見など、立地ならではの楽しみも味わうことができました。ありがとうございました。
完成したセンターの概要は、生活スペースを1階及び2階にも増設し、利用者のニーズに合わせた環境設定となりました。

倉庫はオムツ交換台の部屋になり、白を基調とした清潔感のある部屋になりました。
お風呂場の構造上、横からストレッチャを入れることができる、ジョイントタイプを選択しました。気管切開の利用者もお湯がかかる心配も無くなり、安全に入浴を行うことができます。
センター内全体は、清潔感と明るさを基調とした色使いになり、楽しい、落ち着く空間となりました。感染症が落ち着き、交流ができるようになった際には、是非、遊びにいらしてください。(通園松崎)



秋キュウリ収穫

秋津菜園(荒井農場)の秋キュウリが豊作となり、利用者収穫をしました。
写真の通り立派なキュウリです。ドレッシングをかけて、おいしく頂きました。
その他にも、大根・ジャガイモ・ブロッコリーなどが続々と収穫中です。
次回も収穫報告できると良いです。

(今井)





今回は療育サービス課におじゃましました。こころは、入所や実習など、外部から当園の窓口として、手続きのお手伝いや、相談業務を担当しています。どんな勤務内容なのか？聞いてみたいと思います。

職員数と勤務体系を教えてください。
相談支援員5名が日勤で勤務しています。



女性4名、男性1名の計5名



主な仕事内容はなんですか？
大きく3つに分けられます。

- ① 利用者の生活を裏方でサポート。
ご家族や後見人とういごはもちろんです。各種書類の作成、利用者データの管理などを行っています。
- ② 社会・地域とのつながり作り。
見学案内、ボランティア・研修・実習・インターンシップの受け入れなどの来園者の対応や、地域に向けて園の情報を発信したり、利用者の紹介をしています。

集して、地域との関わりを持っています。また行政や学校、ときには企業とのやりとりもあります。
③ 園の行事や利用者の活動への協力。
支援科と協力して、行事の手伝いをしたり、活動へも参加しています。

広範囲な業務内容ですね。
気を付けているポイントを教えてください。

5人5様の業務内容のため、それぞれの情報を共有できるように工夫しています。
多方面と関わるので、柔軟な対応ができるようにしています。
外部と連絡する時は、タイミングや方法、言葉の選び方は慎重になります。



園内アートの装飾や はたまたバラの苗木植えもやりませう



なまほび、情報共有は大切ですね。
他の課とは、どのようなつながりがありますか？

すべての課と繋がりがありますが、連携が頻繁なのは、療育部とリハビリテーション室です。
療育部とは、長期・短期入所についてのやりとりをはじめ、利用者の書類

作成・発送、医療以外の要件についてご家族後見人へ連絡するなど、たくさん業務で連携しています。
また、利用者が楽しめるように、病棟で撮った動画を編集・制作し、配信しています。
リハビリテーション室とは、利用者の車イスや補装具を新しく作る時、修理をするときの事務的な役割をサービス課が行っています。製作・修理の手続きをするために、後見人や行政と連絡をしています。

皆さんの部署と関わるんですね。
利用者とはどのように関わっていますか？

5人のうち3人は元病棟勤務の職員なので、今も仲良くさせてもらっています。あとの2人も全棟で病棟研修を経験しました。
今は「口ナ禍」で、利用者となかなか会えないのが、とてもさみしいです。
現在は、病棟職員を介しての関わりが主になっていますが、利用者が安心して暮らせる環境を支えていけるように、頑張っています。

今後の課題や展望を聞かせてください。
最近では、ICT（通信技術）を活用したコミュニケーションを利用したりやりとりが増えてきています。ICTを用いて外部（地域・大学・企業）と関わる企画を考えたり、もっと外部と繋がっていきけるように働きかけ、利用者へ還元できるようにしたいです。

一つめは、ボランティアの方々と利用者と一緒に活動できる機会を作っていきたく思います。
おつらには、活動に役立つ情報・方法の発信が、もつとできるようなしていきたいと思っています。

まるで宝石箱のようなバラたちの香りが心を和ませてくれます。力強く咲いているバラたちに、勇気もらっています。このような、素敵な機会をくださったこと。とても嬉しく思っております。
篠宮バラ園さま、ありがとうございます。
(サービス課 石川)

まるでバラ園みたい！
バラ苗育成農場 東京 篠宮バラ園
様より バラ110本のご寄付を頂きました
ありがとうございました

ありがとうございます。今後の療育サービス課の活躍が楽しみです。
このコーナーのご意見・ご感想は jimukyoku@tendoukainet またはお寄せください。

納涼会では、各部屋で魚釣りや金魚すくいをしました。ジュース引換券を使って、各々好きなジュースを選んで暑気払いをしました。手持ち花火をしたり、懐かしの音楽にのせて吹き上げ花火を楽しみました(支援科大塚)



デザートバイキング

ココパインとなめらかコーヒープリンを食べました。ああ～幸せ 栄養管理室の皆さん「ごちそうさまでした」



運動会

運動会は各部屋で玉入れや塗り絵、借り物競争を行いました。

古希・還暦祝い

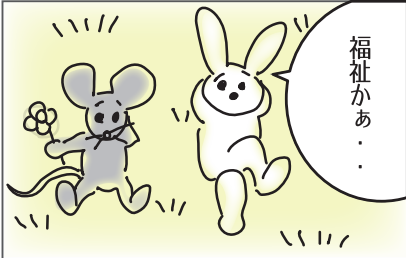
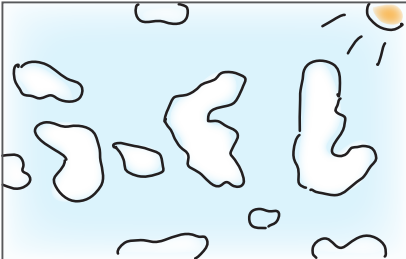
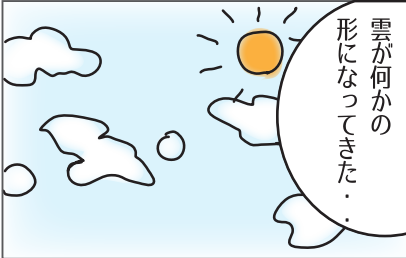
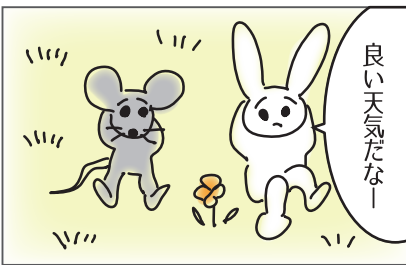
古希・還暦 おめでとうございます

スイカ割り

スイカはそのままかぶりついたり、スイカジュースも楽しみました。一層美味しく感じられました。



100日後に就職するウサギ 第1話



清水基金 助成事業完了



当園では、(社福)清水基金様より助成を受けて、2病棟ミスト浴導入事業を完了しました。利用者、介助者双方から、とても良い。との評価を頂いております。なお、ミスト浴については、次号以降で詳しく掲載したいと思います。



ドライブ取組み 表に出れないこの時期、ドライブ取組を企画、実行しています。個別、または少人数での少しのドライブ。でも気分転換効果は絶大と好評です。ほぼ毎日誰かがどこかへ。『ドライブ』

当園では現在、感染症予防のため、利用者や関わるボランティアの受け入れができなくなっています。「なにか繋がりはできないかな?」そんな思いで利用者が詠んでいる詩や俳句にイラストをつけてもらったりどうだろうと、東村山市ボランティアセンターに募集の依頼をしました。さっそく1名の方から連絡があり、お話をさせていただくと、快く引き受けてくださいました。イラストは詩や俳句からイメージしたものを描いてもらうことができました。



(サービス課石丸)

「うれいごとですな」ととても喜んでいました。ボランティアの方も活動に参加できてよかったとおっしゃってくださいました。現在は3名の方が、イラストボランティアに参加してくださっています。今年文化祭などの行事を自粛して、発表する場がありませんので、出来上がった作品をクリアファイルやマスクケースにアレンジして、加工しました。いろいろな方々の目に留まるいいなと思っております。来園された際にはぜひ窓口で声をかけてください。



イラストで繋がる (上) マスクケースになった利用者の〇さんの句と高松さんの絵 (下) イラストレーターの高松由有子さん

古い写真や文庫の中から、もう一度見ておきたい、読んでおきたいものを掲載します。 秋津アーカイブス 当園に入所しているTさんの甥である高地恭介さんが、第三回「藤村文学賞」の中学生の部で、最優秀賞を受賞された時の物です。全文を3回に分けて掲載いたします。今回は、その第1回です。 「おばさんの日記」第1回(全3回) 高地 恭介 僕の家は七人家族、でも、夏休みと冬休みは、八人になります。 それは、東京の秋津療育園という所にいる僕のお父さんの妹、僕からみておばさんにあたる、Tおばさんが帰って来るからです。 Tおばさんは、耳、口、手、足が不自由で耳には補聴器をつけています。言葉はしゃべれません。気持ちや言いたい事がある時は、足の親指でワープロをうつか動作で伝えるしかありません。手は自由にいかず、物を自分で食べたり、飲んだりできません。 また足の裏で立つことができず、ひざで歩いています。そのため、僕のおじいさん、Tおばさんのお父さんがいっしょに食べたT飲んだり、日常生活をしています。 Tおばさんは、親といっしょに生活するのが一年に二回しかありません。それに比べて僕は、毎日、お父さんとお母さんの顔を見えています。それを考えると僕は、とても幸せな人だと思っています。 (平成9年6月1日発行 「あきつ374号」より) *現在と表現方法が異なる部分がありますが、原文のまま掲載しました

山本鐵子様、土橋栄江様、恵沢准二様、坂本潔様、堂本弥生様、児玉良江様、緒方謙二郎様、牧田勢津子様、横田智子様、秋津療育園後援会様、株式会社ファストリテイ(リングサステナビリティ部)様、東京第三友の会様、三光教会様、慶應義塾女子高等学校家庭部様皆様方の温かい御支援と御協力に、心より厚く御礼申し上げます。園生が日々笑顔で過ごせますよう、使わせていただきたく思います。引き続き、重症心身障害児(者)福祉の充実を目的として、個人、法人、団体の皆様からの御寄附を募集しております。 社会福祉法人 天童会

編集後記 前号までは、コロナ関連の記事一色の色合いでしたが、今号は明るいお知らせが多くみられるようになってきました。依然コロナ警戒は必須ですが、この状況の中でこそ、明るい未来を見出し、なくてはならないのではないのでしょうか。アーカイブス「おばさんの日記」にあるように、それぞれの苦勞も喜びも、共有できる、そんなきっかけとなる記事を、これからも掲載して行きたいと思っております。(池田 雄) あきつ 第627号 E-mail: jimukyoku@tendoukai.net HP: http://www.tendoukai.jp 発行人/飯野 順子 発行/年4回1・4・7・10月発行